

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>○学習規律を継続して指導し、校内研究の充実・授業のUD化を図りながら学習習慣の定着を図ってきたことが一定の成果を挙げた。</p> <p>○いじめ・いのちを考える日の取り組みなどで、学校・児童・保護者が一体となって「いじめを許さない」機運を高めてきた。いじめ事案にも組織で素早く対応したため事案も早期解決できた。これからもいじめ0を目指して指導を継続していく。</p> <p>○健康・体づくりについては、コロナ禍の中で児童の運動量については課題が見られたが、今後も家庭や地域と連携して、望ましい生活習慣の形成や児童の安全に関する資質・能力の育成に努めていく。</p> <p>○地域連携活動である体験活動の推進に関して、ほとんどの保護者が「子供の心を豊かにしている」「麗小のよいところ」であると捉えている。これからも、「開かれた学校推進委員会」と連携を継続し、地域との連携を深めていく。</p> <p>○時間外の校内勤務時間を月に平均45時間以内をめざして取り組んできた。約6割の教員が守られている。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	「ふるさとを誇りに思い、やさしく・かしこく・たくましく生きる麗っ子の育成」
----------	---------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>◎子どもの「学び」を鍛える(学力向上) ⇨ 国語科・算数科授業による活用力の向上</p> <p>◎子どもの「心」を鍛える ⇨ 鳥栖スタイル「三訓」「あいさつ」「時間」「清掃」を大切に指導を行う。</p> <p>◎子どもの「体」を鍛える ○教師力向上・地域連携</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

重点取組			中間評価	5 最終評価	学校関係者評価	主な担当者					
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)		実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	B	・会議や校内研究等の場でマイプランについての共通理解を図った。それぞれの教職員が成果指標達成を目指し、授業において話し合い活動を仕組み、児童の主体的な学びに生かしている。	A	・97.1%の職員が「学力向上対策評価シート(マイプラン)の成果指標を達成し、その達成に努めている。または、達成している」と回答している。 ・2月に行った学習状況調査(12月実施)の分析研修会において、取組の結果と課題について共通理解を図り、今後の共通実践に向けた取り組みを考えることができた。	A	・学力向上の成果指標を達成努力されている先生方の姿が見える。また、2月に行われた分析研修会において、今後の実践に向けた取り組みなどが考えられ、教師間の共通理解もなされているので評価できる。	主幹教諭 指導教諭 【学び育てチーム】		
	○学習内容の定着と活用力向上のための授業実践	○友達と話し合う活動を通じて、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童80%以上	B	・年間1回、全員が公開授業及び授業研究会を実施する。 ・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1・2」を踏まえ、国語科・算数科を中心に、各教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する。	A	・1～5年生まで、公開授業と授業研究会を実施した。6年生と特別支援学級は、3学期に実施予定。 ・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1・2」を踏まえ、国語・算数科を中心に授業で「話し合う活動」を設定し、実施している。	A	・全職員で公開授業、授業研究会がなされ、授業力向上にも努めておられる。授業が楽しく分かりやすい工夫がなされ、子どもたちも最初に設定した数値目標80%以上も達成できていると回答しているため評価できる。	主幹教諭 指導教諭 【学び育てチーム】		
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権学習等を通して、子供の豊かな心が育てられていると、アンケートにて肯定的な回答をした保護者80%以上	B	・人権学習、人権集会等を実施し、全校児童の人権意識の向上を図る。 ・授業参観等で「特別の教科道徳」の授業公開を年に1回全学級で行う。	B	・ICTを活用して人権集会を行い、児童の人権意識を高めたり、自殺予防に向けたいのちを大切にすることを、児童の豊かな心の育成に努めている。 ・保護者が参観できる道徳の授業を、各学年において実施することで、授業を通して学校で指導していることを理解してもらうことに努めている。	B	・学校アンケートにおいて、「道徳や集会等を通して、子どもの豊かな心(思いやり・人権意識等)を育てている」と回答した保護者が92.4%となり、目標を達成することができた。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため授業参観が中止となり、全学級の授業公開を行うことはできなかったが、学年や学級等のお便りでの授業の様子を伝えるように努めた。	B	・心の教育こそ「いじめ」を根絶するための第一歩であり、生き物ふれあい、命や命への思いやり、正しい行動・規範が求められる。 ・コロナ禍において、保護者が思うように参加できず、保護者に理解してもらえなかった中で、肯定的な回答が多かったことは喜ばしい。道徳については学校と保護者と地域が連携し「教えるべきもの」と思うので、その機会を確保したい。	嬉野 古川 祥 【心育てチーム】
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教師90%以上	A	・いじめの認知・認知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間2回以上行う。	A	・危機管理マニュアルを見直し、全職員で対応について共通理解したり、いじめ対応についての会議や研修を行ったりして、いじめの早期発見、早期対応体制づくりに努めている。 ・学年間あるいは管理職への報告・相談をしやすいう雰囲気を作っている。	A	・日常での教師の観察に加え、児童に対していじめに関するアンケートをほぼ毎月実施して、いじめの早期発見・早期対応に努めることができた。友達関係のトラブル等で保護者に来る児童が減少した。 ・いじめの対応についての研修を年間2回行った。全職員がいじめの未然防止のために日頃から指導を行い、いじめの早期発見・早期解決に努めることができた。回答している。	A	・日常生活の中で、先生方の細やかな目配りや声かけに加え、子どもたちへのアンケートを通して、いじめの早期発見・早期対応に丁寧に取り組んでおられる。また、お互い相談しやすい雰囲気ができていることが素晴らしい。 ・個々に見えにくい部分に目を向けたいことが必要。	吉松 戸越 【心育てチーム】
●健康・体づくり	◎ふるさとの自然や地域の人とふれあう体験活動の充実	◎体験活動や地域の方々とのふれあいを通じて、子供の豊かな心が育てられていると、アンケートにて肯定的な回答をした保護者90%以上	A	・地域の方々と共に体験活動の年間計画の作成と見直しを行う。 ・「麗小ふれあい祭当日及びふれあい祭へ向けての準備等に計画的に取り組む。	A	・コロナ感染症対策を行いながら、麗小ふれあい祭を実施することができた。本年度は6年生の餅つきを再開し、昨年度の改善を生かしながら地域ボランティアの方々との交流活動を行うことができた。	A	・豊かな心の育成には、人や自然とのふれあいは欠かせない。「学校のためなら喜んで」という地域の思い「この美しい自然あふれる麗小の町」に囲まれ、お金では買えない大きな宝物・学校と地域が一体となって子どもの成長に役立っていることが分かる。	指導教諭 学年主任 【心育てチーム】		
	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いている児童80%以上 ④「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒65%以上 ②「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いている児童80%以上 ③児童の交通事故を(ゼロ)にする。	B	・学級で全員一緒に遊ぶ日を設定したり(週1回程度)昼休みや業間休みには、外遊びの声をかけをしたりする。 ・「麗っ子がんばり表」を活用し、継続的な指導を行う。 ・交通安全教室を行ったり、校内外の危険箇所を知らせたりすることで、交通規則の遵守と児童の安全に関する意識を高める。	B	・各学級の係活動を中心として、外遊びの日を設定したり、放送等で外遊びを呼びかけ、外遊びを薦めている。 ・学級での指導や、「麗っ子がんばり表」によって生活を振り返ることで、児童の意識を高め、よりよい生活習慣の確立を促している。 ・交通安全教室を実施し、交通規則遵守の徹底を図ったり、交通立番によって安全な登校を促したりしてきた。しかし、残念ながら児童の交通事故が1件起こってしまった。	B	・学校アンケート「授業以外で1日60分程度、運動(遊び)やスポーツに親しんでいる」と回答した保護者が99.6%であった。コロナ禍の状況中においては概ね達成できたと考えられる。 ・学校アンケート「お子様は、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いている」と回答した保護者が86.9%であり、目標を達成することができた。 ・中間評価以降、児童の交通事故を0にすることができた。学校アンケートにおいても、97.5%の保護者が安全に気づけていると回答しており、昨年度より意識が高まってきている。	B	・どろんこになって活動したり、外で元気いっぱい遊んだりしながら子どもたちはたくましく生きる力を身に付けている。麗小の運動場では、昼休み等元気いっぱい外で遊んでいる子が多く、頼もしい。学校と家庭で連携して行く中で、家庭の協力が大きく影響してきて、麗しいところもある。 ・コロナ禍で子どもたちの体力が落ちてきているように見える。	阿嘉 養護教諭 鈴木 中村 【体つりチーム】
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	A	・定時退勤日を設定する。(毎週金曜日18:00を厳守) ・月間時間外校内業務の45時間以内を目標にする。	A	・毎週金曜日の定時退勤日は、緊急対応が必要な時を除き、18:00退勤をほぼ守ることができている。 ・月間平均時間外業務の時間を45時間以内を守ることができている。 ・電子掲示板を利用した連絡や職員会議内容の精選を行うことで、会に係る時間の短縮に努めている。	A	・緊急対応時を除き、金曜日の18:00退勤を1年間ほぼ守ることができた。本年度は厳守を徹底していききたい。 ・月間平均時間外業務時間を45時間以内を1年間守ることができた。昨年度と比較しても平均時間外業務時間が少なくなっている。さらに年間平均時間外業務の総時間数も意識しながら時間外業務の削減に取り組んでいきたい。	A	・時間外在校時間等、時間の上限は守られるようになって、きつと家庭での持ち帰り等の仕事が多いのではないかと感じる。時間外業務の削減が大きな課題ではないだろうか、忙しく走り回る先生方の姿を見かけたい。	教頭 主幹教諭
	○負担感、多忙感の解消	○報告、連絡、相談を密にし、課題に対してチームで取り組み、負担感を軽減する。	A	・児童や保護者との話し合いは複数対応を原則とし、協議しながら、統一した方針で対応する。	A	・行事や提出文書締切等の日時は、月・週行事、連絡会配布プリント及び行事黒板等で、見通しをもって業務に取り組むことができるようになっている。また、児童や保護者との対応や話し合いにおいても、協議をしながら、複数で統一した対応をすることができている。	B	・児童や保護者との対応については、管理職への報告を密にし、学年等で協議を複数で対応することができた。 ・分掌業務については、1人の職員に負担がかかってしまう状況があり、多忙感を解消することができなかった。運営機構を見直して必要がある。	A	・いかにして仕事の効率化を図るのか、大きな課題であろう。	教頭 主幹教諭 指導教諭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			中間評価	5 最終評価	学校関係者評価	主な担当者					
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)		実施結果	評価	意見や提言		
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	C	・鳥栖市教育の日の日曜参観が中止となり、予定していた教科「日本語」の授業公開ができなくなりました。3学期の授業参観や各学年の通信等、また、ホームページや小中一貫教育便り等を通じて、教科「日本語」の様子を順次公開していく予定。	B	・授業参観での授業公開はほとんど行えなかったが、学校アンケート「学校は、教科「日本語」を通して文化やマナーについて学ぶが学習を充実させている」という項目において、「そう思う・たいと思う」と回答が95%（昨年度84%）であった。今後も引き続き、通信等、また、ホームページや小中一貫教育便り等を通じて、教科「日本語」の様子を公開していく。	B	・鳥栖市にしかない教科「日本語」の教科書作成には、多くの人の労力と知恵が込められている。先生たちが積極的に使い、心豊かな子を育ててほしい。 ・また、教科「日本語」の認識が薄いように感じる。	主幹教諭 指導教諭		
○特別支援教育の充実	○個に応じた支援体制の確立のための教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	A	・特別支援教育に関する研修会の実施(5月・8月・11月) ・ケース会議の開催、情報共有	A	・該当児童の個別の指導計画(前期分)をほぼ100%作成することができた。 ・担任や保護者の要請を受け、ケース会議を開催した。SCやSSW、児童相談所と連携し、支援が必要な児童への対応を継続している。	A	・該当児童の個別の指導計画(後期分)をほぼ100%作成し、次年度の目標を立てることができた。 ・新入生保護者向けの特別支援学級説明会、及び個人懇談を行い、情報の共有を図った。 ・研究授業を行い、専門性の向上につなげることができた。	A	・特別支援教育を必要とする子が年々増えている。教員の専門性と意識の向上が求められている。研修会の実施と研究授業が行われ、専門性の向上に努められているので評価できる。	城戸 久保山 【特別支援学級担当】

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ★…鳥栖市共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・学力の向上については、学力向上対策評価シートをもとに全職員で共通理解を図り、校内研究の取組の中で共通実践を行うことができた。12月実施の県学習状況調査の結果や話し合い活動に対する児童のアンケート回答からも、一定の成果を挙げることができたことを確認することができた。</p> <p>・心の教育については、いじめ・いのちを考える日の取り組みだけでなく、児童の生活の様子を教師全員で細かく見ていくようにしたり、児童アンケートを通して実態把握に努めたりして、学校・児童・保護者が一体となって「いじめを許さない」機運を高めてきた。学校アンケートでは、91.8%の保護者が「お子様のことで相談しやすい」と回答している。今後も発覚した事案には、全職員で情報を共有し丁寧な指導を行うよう努め、いじめ0を目指して指導を継続していく。また、地域連携活動である体験活動の推進に関して、ほとんどの保護者が「子供の心を豊かにしている」と評価している。来年度からのコミュニティースクールに向けて、さらにこれらの取組を継続し、地域との連携を深めたい。</p> <p>・健康・体づくりについては、コロナ禍の中で児童の運動量については課題が見られたが、今後も家庭や地域と連携して、望ましい生活習慣の形成や児童の安全に関する資質・能力の育成に努めていきたい。</p> <p>・時間外の校内勤務時間を月に45時間を目指して取り組んできた。年間平均すると半数程度の教員が守られている。次年度は、定時退勤日を100%守ることを目標にする。</p> <p>・小中一貫教育については、授業参観が中止となり、教科「日本語」の授業公開数は減ってしましたが、ホームページや通信にて情報を発信することができた。今後も鳥栖西中学校区3校で連携を深めていく。</p> <p>・特別支援教育の充実については、全ての教師が「特別支援教育への理解を深め、指導に生かしている」とアンケートに答えている。今後も継続して特別支援教育の充実に取り組んでいく。</p>
----------------	---